

## 主題科目 授業デザインガイドライン

### 1. 主題科目はどんな授業？

#### ① スタンドアードと到達目標について

主題科目には、以下の共通教育スタンダード、全学共通教育の到達基準が設定されています。これらが、主題科目の授業のあり方を、もっとも基礎的なところで規定します。

共通教育スタンダード：「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」  
到達基準：「21 世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。」

#### ② 「21 世紀社会の諸課題」とは？

現代社会に生きるわれわれにとって課題となるものであれば、どのようなものでも主題のテーマになりえます。例えば、これまで主題科目では、「差別とマイノリティ」、「経済大国と経済成長のコスト」、「集団的自衛権と憲法」、「農業バイオテクノロジーと環境問題」、「風土・地域環境に立脚した水利用」といったテーマが取り上げられています。

#### ③ 「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」とは？

上記の到達基準に示されているように、育成すべきは、21 世紀社会の課題と解決策を探求する能力ですから、現状への適応能力ではなく、現状を改善するための能力に焦点を絞ることが望ましいでしょう。

#### ④ 主題科目の役割

主題科目は、単に、課題発見・課題解決のためのスキル教育を行なう場ではありません。全学共通教育の役割に鑑みて、主題は学部教育のための準備の場であるとともに、何が現代のわれわれにとっての課題であるのかを知る場、特定の専門分野からのアプローチを相対化できる視点を得る場であることが理想です。学生には、主題で複数の授業を履修することにより、現代社会の諸課題について知るとともに、様々な学問分野において、現代社会の諸課題に対してどのようなアプローチが採られるのか、具体的に学ぶことが期待されています。

### 2. 授業のテーマ設定をしていただく際の注意

授業で取り扱うテーマを学生自身の問題として考えさせるためには一定の授業時間が必要ですが、8回の授業で取り扱える情報量には限りがあります。それゆえ、複数のテーマを次々に扱うよりは、テーマを絞り、全体を有機的にデザインし、当該テーマが学生自身にかかわることを理解してもらうことが望ましいでしょう。

大学教育基盤センターでは、授業のキーワードをシラバスの概要欄で示すことを授業担当者にお願いしています。授業のテーマを端的に表す語や、授業のテーマに取り組むうえで鍵となる語がキーワードです。キーワードを設定すると、教員は授業設計のうえで、その統一性を意識しやすくなりますし、学生は授業のポイントを容易に理解できるようになります。なおキーワードの提示は、シラバスチェックのチェック項目となっています。

### 3. 主題科目で推奨される授業デザイン

課題発見・解決型授業の理想形は卒業研究ですが、いうまでもなく、このレベルを初年次生に要求することは困難です。だとすれば、学生主導の活動を組み込む場合は、初年次生のレベルでも取り組める課題を設定する、あるいは、課題の成り立ち、現状、構造、事例、解決策、課題発見、課題解決の方法についてしっかり教える、という授業デザインが考えられます。前者は学生に、授業テーマに直結する課題発見・課題解決のワーク（PBL, TBL など）を課すという形で実施可能です。後者の場合、講義に一定の時間を割く必要がありますが、部分的に課題発見や課題解決の作業を組み込めば、学生の理解度や課題に対する探求能力を高めることにつながります。この場合、「課題発見」や「課題解決」は広い意味で捉えて構いません。例えば、過去の政策の問題点を探し、既存の理論を批判する、複数のプロダクト、作品間の差異を見出す、作者の意図を探るといった作業も一種の「課題発見」です。「何かを見出す」作業を課すのであれば、課題発見型授業だとお考え下さい。また、実験を設計する、歴史的事象から教訓を見出す、理論の応用可能性を考えるといった作業も、広い意味での「課題解決」に該当します。「何かを考え出す」作業を課すのであれば、課題解決型授業とみなして問題ありません。ご自身の専門分野に応じて課題発見、課題解決の要素が含まれるものを探してください。

### 4. 主題科目の条件

以上をまとめると、次の三点が主題科目を設計する上での条件となります。授業を設計する際にご留意ください。

- ・キーワードを設定し、どのような現代社会の課題を取り上げるのか、明確にする。（キーワードはシラバスの「概要」で1つ以上記載する。）
- ・キーワードを軸にして、全体の連関が見えるように授業をデザインする。
- ・学生自身が、課題発見・解決に関わる機会をつくる。

### 5. 主題科目の授業タイプ

大学教育基盤センターでは、主題科目の授業を以下の4タイプに区別し、I～IIIでの実施を推奨しています。

- I 課題発見・解決型…授業全体、あるいは一部に課題を発見し、解決策を提示するワークがある
- II 課題解決型…授業の全体、あるいは一部に課題解決策を提示するワークがある
- III 課題発見型…授業の全体、あるいは一部に課題を発見するワークがある
- IV 課題理解型…すべて講義で進められる